



川上澄生の世界

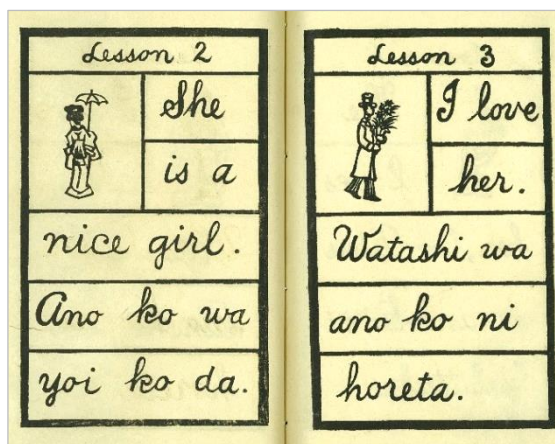


常設展示室内の一角で、さまざまなテーマに沿って所蔵資料を紹介する小コーナー「文学館アーカイブ」。今回は、木版画で南蛮や文明開化の風俗を表現した川上澄生に注目します。

川上澄生の木版画はすべての工程を一人でいう創作版画で、その素朴な彫り味が醸し出す懐古的な詩情は広く愛されています。詩人としても活躍し、自身の詩文と木版画による書物は味わい深く、さらに、他作家の著書や雑誌の装丁・挿絵でも個性を發揮しています。

1945年から1949年には戦時疎開のため滞道。その間に制作された作品や、着想を得た作品も多く、北海道との関わりが深いことも特筆されます。

本展では、自画自装の著書を中心に木版画、装丁本(誌)など約80点をご紹介します。歿後50年を経てなお色褪せない魅力をたたえた川上澄生の世界をご堪能ください。



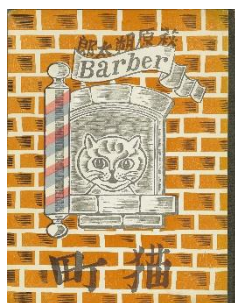
展示内容より

- I 描く詩人 川上澄生
『澄生全詩』川上澄生著 大雅洞 1971年
『我が詩篇』川上澄生著 龍星閣 1956年 ほか
- II 文明開化を描く
〈金髪美人とランプ(西洋婦人と洋燈)〉木版、紙
〈IAPAN〉木版、紙
『変なリドル』川上澄生著 版画荘 1934年
『えげれすいろは』川上澄生著 改造社 1936年
『ランプ』川上澄生著 アオイ書房 1940年
『明治少年懐古』川上澄生著 明治美術研究所 1944年
『洋燈と美人』木彫、1961年
『猫町』萩原朔太郎著 装丁:川上澄生 版画荘 1935年 ほか
- III 川上澄生と北海道
〈偽版古地図〉木版、紙 1953年
『あいのもしり』川上澄生著 青盤舎 1955年
『えぞがしま』川上澄生著 青盤舎 1958年
『あびら川』川上澄生著 亜艶館 1955年
『河童暦』更科源蔵著 川上澄生絵 鶴文庫 1946年
『北海道絵本』更科源蔵文 川上澄生絵 日本交通公社 札幌支社 1949年 ほか

『ランプ』
(川上澄生著
アオイ書房
1940年)表紙

『変なリドル』
(川上澄生著
版画荘 1934年)
より

『猫町』
(萩原朔太郎著
装丁:川上澄生
版画荘 1935年)
表紙



2023年

4月11日(火)～
6月25日(日)

9:30～17:00 (入場は16:30まで)

常設展示室内

アーカイブコーナーにて

観覧料(常設展観覧料):

一般500(400)円 高・大生250(200)円

中学生以下、65歳以上無料

()内は10名以上の団体